

## 木材の有るべき姿とは？

この間ある設計士から、幼稚園の内装は無垢木材の場合、使用面積の制限があるのですよ！と聞き吃驚しました。この話しの続きが有って小学校以上の教育施設は使用面積の制限はないのですよ！と言う事なのです。

確かに私は大阪市住之江区に住まいがあり、準防火の為に外壁に木材をむき出しには使えないので、モルタルで塗り固められています。しかし私の母親の実家は総木造です。

外回りの塀にも焼き杉の板が打ち付けられています。

本当に国の建築に対する法律は本当に消費者にとって正しいのでしょうか？私は疑問に思います。

木は燃えるから使えないと言う発想は可笑しい、鉄筋コンクリートもしくは鋼鉄製で出来た工場の火災の後を見られた方は、ヘナヘナになった後の姿は木造の火災後の姿と較べるべくも無く本当に酷く何とも言えない姿です。半焼でも全焼と同じ扱いになるでしょうか？

もし火災の時に全焼でなければ、木造の方が修繕は圧倒的に可能です。

すこし違うサイドから見ると火災の時、保険会社のこれが全焼、これが半焼、これはボヤと認定されますが、この時の査定は非常にシビアです。私の親戚が10年ほど前に火災に遭遇したのですが、私の親戚は当然、全焼と認識されると思ったのですが、保険会社は、半焼の査定でした。実際家の中は何もかも燃えているのですが、勿論構造材の柱とかは燃えているのですが、『柱の外観は燃えていても、中はしっかりしているのでは』と保険会社は言うのです。保険会社はシビアですよ！色々折衝しましたが、保険会社は上記の通り言うのです。頑として譲らないのです。

親戚の木造の家は、何とか保険の補償金で復旧出来ましたが。

木は燃えるから使えないと言う発想は可笑しい、燃えるから最後は土に戻るこれは、当たり前前の自然の法則です。燃えなかったら木は木ではないのではと考えます。もし火災が発生したら、他の設備で対策するのが人間の知恵の使い方ではないでしょうか？スプリンクラーとかの設備で。

少し話を戻しますが、幼稚園の園児は人間として生まれてきて一番大事な時期だと思います。人間としての情緒、感性、それを育てるのに出来るだけ自然に近いものに、触れる事は大切です。只火災の事だけで木材の使用面積の制限をもうけるのは、甚だお門違いだと思います。火災が起きたら一番園児達に危害を与えるのは有毒ガスです。ホルマリン等の人間が作り出した物質が火災で有害物質に変化して起こるのではないのでしょうか？確かに火災の事も十二分に考えなければいけない条件だとは思いますが、日頃の木の良さ、つまり温かみ、適度に湿度を吸い取る保湿性、マイナスイオン効果等様々な良い効能をいかに発揮させる事が必要なのではないのでしょうか！

今木材の不燃技術の開発が盛んに方々でされていますが、木材をもっと多く使う為の技術は、もっともっと進歩しなければならないと考えますが、しかし只単に燃えなくすると言う、単一目的の為に研究するのではなく違う意味の研究が必要ではないですか？

それは木材が国際間の戦略物資になりかけています。今まで鉄とかプラスチック、コンクリートでできた物を木材資源つまり日本の杉・檜を有効利用しようと言う考えです。もう既に大手ハウスメーカーのS社は内地材に目を向け戦略的に杉・檜を有効使用するための、取り組み始めています。おそらく大成功するでしょう。(S社は自社林を多く持っています。)

この戦略は難しい考えではなく、森林をエンドレスな資源の供給先として捕らえ、出来るだけその会社で作る家の部材は(檜・杉の柱・梁・杉のハイブット合板等)、自分の森林から供給しようと言う考えです。

木材価格は下がりにくく、下がらないのだったら、もっともっと日本の杉・檜を有効利用し外国に依存しなければならない材料のウエイトを下げるのが本当の取り組みだと考えています。



## 学問的なデータが木材業者にはあるのか？

御客様から無垢のフローリングで床暖房の引き合いを度々頂くのですが、学問的データから判断すると服部商店が直輸入しているアメリカ広葉樹のシッパの材は一応適応するのです。このデータは公的な機関が調査した物なので、本当にしっかりした物です。しかし木材業者は原木の価格、製品の価格等の情報は非常に明るいのですが、こうしたデータを生かしきっていません。又データ其のものは多種多様な物ですので、必ずデータの組み合わせが必然的に発生します。こういう情報を全て公的な処に頼りきっても答えは出ません。



確かに木材業者の仕事は適材適所に木材を販売する事が本来の仕事ですが、はっきり言って木材をユーザーに買って頂く時に数字に裏付けられた商材は非常に少ないのです。

しかし現代の消費者様の要望は多種多様です、その要望に応える為には只単に、『この商品は綺麗でしょう』と言う表現は、余り説得力は有りません。無垢の木だから少し狂いますと言う表現では無く、数字で〇〇～〇〇ミリは動きますが正しい表現では無いでしょうか？

服部商店では床暖房のテストを致します。詳細は下の記事で述べますが、この結果についてはこの新聞で継続してご報告したいと思います。

## 服部商店テストルーム

七月二十一日～二十二日に服部商店の本社2Fに床暖房用フローリングのデータ集めの為に六畳の畳を上げ、熱線式の方式にて施工しました。

床以外は触っていません、と言うのは巾方向、厚み方向、長さ方向、形状変化等の木材の変化を数字で確かめる為の工事です。数値データの収集は、最低半年は掛ると考えております。

無垢のフローリングの材質はアメリカブラックチェリー・ブラックウォールナット・ハードメープル・レッドオーク・ホワイトアッシュ・パシフィックコーストメープル・アルダーの七種類です。

アメリカ広葉樹の高級品から普及品迄全てをテストしています。

只単のテストではなく色合いの変化も確かめる事もこのテストルームで実証出来ると考えております。

フローリングのテストが終了すれば、腰板、壁板、天井板、窓枠、取り付け家具、建具と全てをグリーン購入法合格の広葉樹、針葉樹でリフォームする予定です。そしてモデルルームに仕上げます。

施工していただきました大工さんの清家氏・工務店の番頭さんに感謝しています。



## 木材業界の流通革命は果たして消費者に、真のサービスを提供出来るのか？

ホームセンターの台頭、木材価格のオープン化、と確かに消費者サービスは進んでいるように見えますが、消費者に対してのサービスが一定レベルを過ぎると逆効果になると私は考えます。

アメリカのホームセンターは日本に較べると本当に価格はオープン化されています。高級品を除いて売ってない物は建築部材では有りません。私がアメリカ、シアトルのホームセンターを二ヶ所視察して来た時は、愕然としました。システムキッチンから、ドア、釘、糊、塗料等々有りあらゆる物まで、朝六時半から営業しているのです。

アメリカの木材業界の流通は超大手シッパから直接ホームセンターに木材が入っています。日本の流通から見ると二つの流通は確かに除かれています。しかしアメリカでは、木材の良し悪しを見分けるのは大工なのです。つまりカーペンターの技術が有り、本当に設計士、施主に信頼され、そして地位が非常に高いのです。日本は木の良し悪しを見分け大工に木材を、販売するのは木材業者の仕事なのです。設計士の管理部門を補助出来るのは、本当は工務店ではなく大工さんなのです。

日本のホームセンターは一見アメリカの後を追っている様に見えますが、少し違うのは日本は見た目と価格だけが先行しているだけで、中身がないのです。技術者の裏づけは一体どう考えるのですか？

姉歯の問題で皆様が解った事は設計士の仕事には意匠(デザイン)と構造があるのです。日本人は前者を重んじてますが本当は後者が大事なのです。アメリカは設計士の仕事は完全に二つに分かれ双方が緊張関係で結ばれており、決してデザイン優先で建築物は建ちません。デザインが素晴らしくても構造上問題があれば即ストップですよ！この話しは先月号で知り合いになったアメリカから帰国した設計士に聞いていますので、真贋は間違い無い事です。

少し話しは飛びますがシステムキッチンの意味は？皆様はご存知ですか？

システムキッチンとは、ヨーロッパから来ているのです。水道の蛇口はスウェーデン製、レンジはドイツ製、キッチン周りはイタリア製、換気扇はフランス製と各国の商品を選んでも、すっきり収まるのです。ヨーロッパのシステムキッチンは全てスウェーデン規格、ドイツ規格で出来ていて、両方共通の規格なのです。ネジ穴のサイズ等も共通規格なのです。

話しを元に戻します。ある一定レベル迄木材関係業者は疲弊するでしょう、二～三年以内に中国製のシステムキッチンも日本に入ってくるでしょう。しかし日本みたいに成熟化された国で、既製品のな物で施主様に満足を与える仕事を設計士は出来るでしょうか？弊社は考え行動しています。施主様に満足を味わって頂き、設計士さんに仕事の面白さを体感して頂き、そして生態系を守る、その三つの約束を守る材木業者になる事を目指します。

## 木材価格の高騰は何を意味するか？

現在木材価格は、石油資源と同じ位高騰しています。石油は78ドル/1バーレルを越えています。スタンドでガソリンを入れる度に値段が上がって困ったなど！と皆思っていますね。石油の事は身近な問題なのでよく承知されていると思いますが、木材の価格高騰は案外見過ごされています。一部新聞に大手建材メーカーが建材商品の値上げとか、ホームセンターで合板が上がっているなど見る位だと思います。しかしこの一連の一次製品の値上げは日本人に物を大事に使わなければならない、本当の無垢を使って長持ちする家を建てろと警鐘をならしているのいるのです。さて最新の噂ですが、**インドネシアが西暦2014年から天然林の全面的伐採規制**をしようと言う話しが持ち上がっています。これは政策的な面より国の戦略的な要素が非常に強い事の現れです。インドネシアの生産財のうち石油資源はもう先が見えてきています。しかし木材は相当量残っており、百年単位で森林育成を行えば重要な国の外貨獲得手段になります。インドネシアはそう言う事を念頭に入れて国の戦略変更を目指したと考えるべきです。



インドネシア製のラワン薄物合板は品質的にピカイチです。主な用途は複合フローリングの台板です。複合フローリングとは、上質の合板の上に、単板を張っている建材です。マンション、建売り住宅で使われ、一見素人は無垢のフローリングと思っている商品です。しかし十年位で捲れる可能性が有る住宅部材です。最近ではホームセンターでも販売されています。

なお2006年度のインドネシア産合板の対日本の輸入量は前年に比較して70%オフです。30%しか輸入出来ないのです。輸出量の削減の理由は違法伐採が横行し本気になって政府が規制しようとしているのです。逆を返せばスハルト大統領時代は70%が違法伐採だと言う事です。

入荷量が少ない為にインドネシアから、マレーシアのサラワク州・サバ州へ輸入先を商社等はシフトしていますが、木材の埋蔵量は、圧倒的に多いインドネシアに全然及びません。仮に今のスピードでサラワク・サバ州で伐採が実行されれば、フィリピンみたいな、はげ山の国になってしまいます。ラワン合板を作る為に必要な原木は樹齢200年掛るんですよ、たかが合板と日本では思われている様な風潮ですが、本当の現地の状況は全く違います。合板を多用する日本の木材の使い方を変えなければいけないのです。木材価格の高騰は日本人に木材資源の使いを問いかけているのです。

## 子供の成長

私の次男は幼稚園の年長です。8月7日に6歳になります。8月一杯は夏休みです。7月31日迄幼稚園のプールは毎日行っていました。最後の日に幼稚園で育てていたアサガオを持って返って来ました。毎日朝私が犬の散歩行く時に一輪ずつ花が咲いているのを見ます。アサガオは一日一回僅かの時間早朝にしか美しい顔を見せませんが、見せる為にどれだけ、見せない時間に努力しているかを考えると、現在の日本人の日頃の行いは本当に正しいのかと、アサガオを見て感じます。



99%の人に见せない努力が1%の成功に繋がるのです。努力とは人に見せるものではなく自分に妥協せず、するものだと思っています。又子供の成長は自分が歳を積み重ね合わせているのだと感じている昨今です。精神的には30台のつもりですが、体はもう50歳に近いので子供と遊び、転んだ時は、本当に壮年期に入ったと感じています。親としての私の子供に対する願いは、自分の信じる事が出来る人間に成長して欲しい事が唯一の望みです。家業を継ぐにしても、楽しいから、継ぎたいと思う様になって欲しいと考えています。

## 服部商店の歴史

### 昔の材木屋の人はガリガリでも力持ち



昭和30年頃、服部商店の前身服部製材所の現場写真を紹介します。左側に映っているのは、御客様です。右側は職人さんです。この職人さんは私が8歳位まで面倒を見て頂きました。通称『トラさん』です。メインの仕事はテーブルの腹押しでした。この当時私の父親の服部良昌は社長ではなく、祖父の猪三郎が製材工場の切り盛りをしていました。しかし脚に重大な事故で障害が有って、父親の良昌が仕事を仕切っていました。映っていませんが、この写真を撮ってくれたのが父です。母親と結婚したのが昭和33年でしたのでその当時の事を、この新聞に書くのに母に色々教えてもらいました。バックに映っているのは桂の将棋盤です。フォークリフトもクレーンも無い時代です。皆が力持ちだったと想像できます。昔は何でも売れたと、現在の材木屋の連中はおっしゃいますが、そうでもなかったと聞いています。まず仕入れが現在に比較すべくも無く大変だったとか、電話は勿論、今と全く違う、一旦電話局に電話し、そして先方に伝えてもらうとか、先方に電話が無かったから、営業に行った時に価格、数量、納期、支払条件を全て決めてきて、通称『バタバタ』で運ぶと、何もかも手仕事で計算機も無ければ何も無いのです。実際私が生まれた昭和33年頃は本当に大変だったとの母親から聞きました。

日の丸弁当の昼食でよくも此れほどの、仕事をしているのかと思えば、現在の我々は本当に恵まれていますね！

